

お母さま話 (幼児に読んで聞かす話)

お猿さんの誕生日

武田雪夫

さあこれは、お猿さんの誕生日のお話ですよ。
今日は、お猿さんの誕生日です。

お猿さんは、いつも自分の誕生日には、仲のよいお友だちをよんで、ご馳走をすることにしています。こんごも、昨日あちらこちらのお友だちに、お手紙を出しました。

でも、お猿さんは、まだ小さくて、お手紙が書けませんから、お猿さんのお母さんが、代りに書きました。お猿さんのお母さんは、お手紙を書くことが、それはお上手でした。

お手紙には、かう書いてありました。

ずる分、おあたたかになりましたが、皆さん

お元気で何よりです。

さて、私は今度、七つのお誕生のお祝をいたしたいと存じます。何もごさいませんが、さうぞ、明日のおひるから、お出かけ下さいませやう、お待ち申上げてをります。

半日をみなさんと、楽しくあそびたいと思ひます。

かういふお手紙を貰つたのは、いつもお猿さん仲のよい兎さんご栗鼠さん、鶴さんに鳩さん、それから猫さんご犬さんご子牛さんたちでした。

みんなは、ほんごに大よろこびでした。明日になるのが待遠しくなりました。だつて、

いつもお猿さんの誕生日には、それは色々の面白いことをして遊ぶのですもの。その上、おいしいご馳走が、きつさりきつさりあるのですもの。

いよいよ今日になるさ、お晝のご飯がすんで、少したつた頃、もうお客さまが来ました。

一ばんはじめに來たのは、さあ誰だつたでせう。それは、お耳のながい、兎さんでしたよ。兎さんは、箱に入つたおもちやを、お祝に持つて來ました。そして、

「これ、つまらないものですけれど、さうぞ。」
「言つてお猿さんに上げました。お猿さんも、お母さんも、大よろこびで、

「それは、さうも、ありがたうございます。」
「言つて、そのお祝を頂きました。」

そのうちに、栗鼠さんも、鶴さんも鳩さんも、それから猫さんも犬さんも、みんな來ました。誰も彼も、みんな、何かお祝を持つて來ました。一ばんあさから、子牛さんも來ました。子牛さんは、お母さんの牛さしよに來ました。でも子牛さんは、さうしたのか、何もお祝を持つてゐません。お母さんも持つてゐません。さうしたのでせう。わすれて來たのでせうか。

牛のお母さんは、昨日、お猿さんのお母さんがたのんでおいたので、ご馳走を作るお手つだひをしに來たのでありました。牛のお母さんは、お臺所で、にこにこ、にこにこしながら、お手つだひをしてゐました。するさ、みんなが、お猿さんに、おめでたうを言ふ歌の聲が聞えて來ました。

誕生日おめでたう

誕生日よ、おめでたう

お猿さんおめでたう

お猿さんよ、おめでたう

………
するさ、そこへ、お猿さんのお母さんが入つて來て、牛のお母さんに、

「さあ、すみませんが、そろそろ、ご馳走をはこんで下さいな。」と言ひました。牛のお母さんは、

「はい、はい。」と言つて、むかふのお室へ、さんざんご馳走のお皿をはこびはじめました。

お客さまは、みんな、ひろいお室のまん中の、大きなテーブルに、ぐるりとお腰かけをならべて、坐つてゐます。その中に、子牛さんも、にこにこしながら坐つてゐましたから、牛のお母さんは、うれしくてなりません。牛のお母さんが、

お臺所へ歸つて、少し休まうとしてゐますよ。そこへお猿さんのお母さんが、あわてて入つて来て、「おやおや、まあ、私は、すっかり忘れてしまつたのですよ、うっかりして、いちごミルクを作る、ミルクを買ふのを忘れてしまつたのですよ。」と言ひました。するに、牛のお母さんは、にこにこして、「はいはい、さうですか。それなら、これから、わたしが自分のお乳をしぼつて上げませう。私はお乳をしぼつてビンに入れて、お祝に持つて来ようと思つたのですけれど、お乳は、しぼり立てがよいと思ひましたから、わざとしぼらずに來ました。さあ何か、きれいな鉢をかして下さいな。」と言ひました。

お猿さんのお母さんは、ほつさして、大へんよろこびました。そして、すぐに、きれいな鉢を、戸棚の中から出しました。

牛のお母さんは、その鉢の中へ、自分のお乳から、まづ白なお乳を、ジュッジュッ、ぎつさりしぼつてくれました。それから、二人のお母さんは、お皿の中へいちごを入れたり、その上にお砂糖をかけたたり、今の牛のお乳をかけたたりして、いちごミルクを作りました。そして、二人で、お客

様の方へ、きんきんはこんで行きました。みんなは、大よろこびで、いちごミルクを食べはじめました。お猿さんが、大きな聲で言ひました。

「まあ、このいちごは、まつかだこ。まるで、兎さんのお目々みたいね。」

するに牛牛さんが、びつくりしたやうに大きな聲で、「あ、これ、お母さんのお乳だよ。」と言ひました。

さうするに、お猿さんのお母さんが、

「ええ、さうですよ。まあまあ、子牛さん、よくわかりましたこ。子牛さんのお母さんは、今日のお祝に、しぼり立てのこんなにおいしいお乳を、ぎつさり下さつたのですよ。」さう、言ひました。それを聞くに、食べてゐるいちご、ミルクが、また、一そうおいしくなるやうな氣がしました。それで、みんな、

「まあ、おいしいこ、まあ、おいしいこ。」と言つて、たくさん食べました。

では、これでお猿さんのお誕生日の話はこれまで。